

JENESYS2024 日本・フィリピン開発交流（日本人大学生派遣）の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】フィリピンの現状や日本との関わりについて学ぶことを主目的に、日本の大学生 8 名がフィリピン（マニラ）を訪問しました。現地では、インフラや貧困をテーマに講義を受け、現場視察を行うことで、日本の開発協力の歴史やその重要性について理解を深めました。また、現地の学生との交流やホームステイを通じて、互いの文化を紹介し合うとともに、現地の視点から開発について意見を交わし、両国の友好関係の強化を図りました。

【参加者】日本の大学生 合計 8 名

【訪問地】フィリピン マニラ 8 名

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）:

- 8 月 27 日（火曜日） 【オリエンテーション】全体初回オリエンテーション
 【体験談】JENESYS 派遣プログラム 2023 年度参加同窓生による体験談
 【講義】「ようこそ、日本アセアンセンターへ」
 2024 年度全 JENESYS ASEAN 派遣プログラム合同実施
 講師：東南アジア諸国連合貿易投資観光促進センター（国際機関日本アセアンセンター）観光交流チーム 渡邊 光生 氏
- 11 月 12 日（火曜日） 【講義】派遣国理解講義「フィリピンの基本情報と生活文化について」
 講師：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）JDS フィリピンプロジェクトオフィス カントリーオフィサー 清水 柚奈 氏
- 1 月 17 日（金曜日） 【講義】テーマ関連講義「NPO 法人アクションの活動内容と貧困について」
 講師：NPO 法人アクション 広報 西崎 一哉 氏
- 2 月 13 日（木曜日） 【参加者説明会】

■ 派遣プログラム:

- 2 月 25 日（火曜日） 【出発前オリエンテーション】
 成田国際空港より出発
 マニラ ニノイ・アキノ国際空港到着
- 2 月 26 日（水曜日） 【表敬訪問】在フィリピン日本国大使館 専門調査員 向川 友理絵 氏
 【講義】独立行政法人国際協力機構（JICA）フィリピン事務所
 「JICA フィリピン事務所 事業概要」「フィリピンにおける運輸交通について」
 講師：駐在員 経済成長班 技術士 川端 剛弘 氏
 NGO デスク 総務班 阿部 桂子 氏
 プログラムオフィサー アンジェラ・パイク 氏
 【表敬訪問】青年組織委員会（NYC）特命委員ミシェル・マエ・ゴンザレス氏

【交流】JENESYS 同窓生との交流

2月27日（木曜日）

【学校交流】フィリピン大学 ディリマン校

【視察】NPO 法人アクション 貧困地域視察：ナボタス市タンザ地区

2月28日（金曜日）

【学校交流】リセウム・オブ・ザ・フィリピン大学

【視察】サン・アグスティン教会

【ホストファミリー対面式・ホームステイ】フィリピン メトロマニラ

3月1日（土曜日）

【ホームステイ・ホストファミリー歓送会】

3月2日（日曜日）

【視察】首都圏鉄道（MRT）三号線、リサール公園、サンチャゴ要塞

3月3日（月曜日）

【ワークショップ】報告会準備（渡航成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）

【報告会】渡航成果・帰国後の活動計画発表

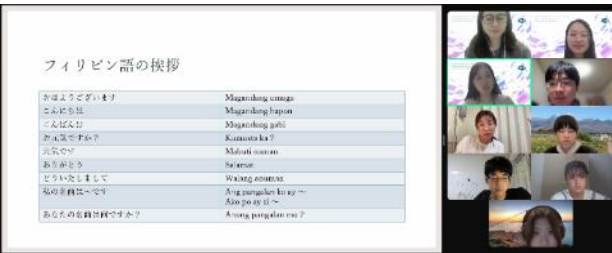
マニラ ニノイ・アキノ国際空港より出発

3月4日（火曜日）

羽田空港到着

2. 記録写真

プレプログラム（オンライン事前学習）

 ◆ASEAN加盟の歴史 ASEANについて知ろう！ 日系企業：14,500社以上																			
2024年8月27日【講義】 「ようこそ、日本アセアンセンターへ」	2024年8月27日【講義】 集合写真																		
 フィリピン語の挨拶 <table border="1"> <tr> <td>おはようございます</td> <td>Magandang umaga</td> </tr> <tr> <td>お昼はいいね</td> <td>Magandang hapon</td> </tr> <tr> <td>こんばんは</td> <td>Magandang gabi</td> </tr> <tr> <td>お元気ですか</td> <td>Kumusta ka?</td> </tr> <tr> <td>元気です</td> <td>Mabuti osan</td> </tr> <tr> <td>ありがとう</td> <td>Salame</td> </tr> <tr> <td>どういたしまして</td> <td>Walang anuman</td> </tr> <tr> <td>私の名前は何ですか</td> <td>Ang pangalan ko ay ~</td> </tr> <tr> <td>あなたの名前は何ですか</td> <td>Ang pangalan mo?</td> </tr> </table>	おはようございます	Magandang umaga	お昼はいいね	Magandang hapon	こんばんは	Magandang gabi	お元気ですか	Kumusta ka?	元気です	Mabuti osan	ありがとう	Salame	どういたしまして	Walang anuman	私の名前は何ですか	Ang pangalan ko ay ~	あなたの名前は何ですか	Ang pangalan mo?	 jica 草の根技術協力事業 ACTION Phase1 (2013-2015) ハロステアメント付録 (Nagpep) Phase2 (2016-2018) ハロステアメント付録 (Nagpep) Phase3 (2019-2024) ハロステアメント付録 (Nagpep) Phase4 (2025-2027) ハロステアメント付録 (Nagpep)
おはようございます	Magandang umaga																		
お昼はいいね	Magandang hapon																		
こんばんは	Magandang gabi																		
お元気ですか	Kumusta ka?																		
元気です	Mabuti osan																		
ありがとう	Salame																		
どういたしまして	Walang anuman																		
私の名前は何ですか	Ang pangalan ko ay ~																		
あなたの名前は何ですか	Ang pangalan mo?																		
2024年11月12日【講義】派遣国理解講義 「フィリピンの基本情報と生活文化について」	2025年1月17日【講義】テーマ関連講義 「NPO 法人アクションの活動内容と貧困について」																		



2025 年 1 月 17 日【テーマ関連講義】集合写真



2025 年 2 月 13 日【参加者説明会】

派遣プログラム



2025 年 2 月 25 日【出発前オリエンテーション】



2025 年 2 月 26 日【表敬訪問】在フィリピン日本
国大使館 専門調査員 向川 友理絵 氏



2025 年 2 月 26 日【講義】
「JICA フィリピン事務所 事業概要」
「フィリピンにおける運輸交通について」



2025 年 2 月 26 日【表敬訪問】
青年組織委員会 (NYC) 特命委員 ミシェル・マエ・
ゴンザレス氏



2025 年 2 月 26 日【交流】
JENESYS 同窓生との交流



2025 年 2 月 27 日【学校交流】
フィリピン大学 ディリマン校



2025 年 2 月 27 日【視察】NPO 法人アクション
(ナボタス市タンザ地区)



2025 年 2 月 28 日【学校交流】リセウム・オブ・
ザ・フィリピン大学



2025 年 2 月 28 日【ホストファミリー対面式】



2025 年 3 月 1 日【ホームステイ】



2025 年 3 月 2 日【視察】首都圏鉄道 (MRT) 三号
線アヤラ駅



2025 年 3 月 2 日【視察】サンチャゴ要塞



2025 年 3 月 3 日【報告会】



2025 年 3 月 3 日【報告会】集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

プレプログラム（オンライン事前学習）

◆ 大学生（プレプログラム 1 回目：2024/8/27）

ASEAN 地域と関係性を保つことの重要性を学びました。この交流は日本の未来にも影響していくものであることを実感し、より責任感が芽生えました。また、初めて一緒にプログラムに参加する仲間と顔合わせをしましたが、それぞれのプログラムに参加した理由を聞くことができ、一人一人が持つ想いを知ることができました。プログラムはチームで参加するため、仲間への理解も今後深めていきたいと思います。

◆ 大学生（プレプログラム 2 回目：2024/11/12）

フィリピンの具体的な雰囲気をもより深く理解することができ、大変勉強になりました。個人的に調べただけでは得られない情報も含め、さまざまなことを知り、参加への期待が一層高まりました。また、メンバー同士の交流では、日本文化を紹介する意欲が高まるとともに、初めての関係を築く貴重な機会となり、印象に残りました。

◆ 大学生（プレプログラム 3 回目：2025/1/17）

NPO 法人アクションさんの活動を通じて、フィリピンが抱える問題について詳しく学ぶことができました。特に印象に残ったのは、草の根技術協力事業です。児童虐待という問題に対し、施設の職員へのアプローチを行っている点は、課題を深く理解しているからこそ可能な取り組みだと感じました。また、施設に入ることができない子どもたちがいるという現状を知り、支援が十分に行き届いていない地域に対して、今後どのように対応していくべきかを考える必要があると強く感じました。

◆ 大学生（プレプログラム 4 回目：2025/2/13）

本日のプログラムを通じて、具体的なスケジュールを理解することができました。訪問先も把握できたので、今後、それぞれの場所について事前にリサーチを進めてみたいと思います。また、SNS にあまり詳しくなく、まだフィリピンに関する広報活動ができていないため、グループの皆さんと協力しながら進められるよう、声をかけていきたいと思います。

派遣プログラム

◆ 大学生

このプログラムでの経験を通じて、文化とは食事や踊り、生活スタイルに加え、人々の在り方も含まれるのだと感じました。そして、この「人々の在り方」は、その地域を実際に訪れなければ分からないものであり、コミュニケーションを通じて学べる部分だと思います。今回のホームステイは短い時間でしたが、それでもラグーナ地域の人々の魅力を感じることができました。例えば、朝 5 時からにぎやかに会話を楽しんでいたりと、写真が大好きで常に撮ってくれたりする様子は、日本ではあまり見られないものであり、この地域ならではの温かさだと感じました。

文化交流というと、食事や踊りなど形のあるものに注目しがちですが、目に見えない「人柄」や「地域の雰囲気」にも焦点を当てることで、その地域の魅力をより深く理解できると思います。だからこそ、実際に現地を訪れ、現地の人々と会話を交わし、一緒に過ごすことの大切さを改めて実感しました。

◆ 大学生

NPO 法人アクションさんにご案内いただいたナボタス地区の現地視察が、最も印象に残りました。これまでフィリピンの貧困については、メディアや教科書などを通じて知っていましたが、実際に現地を訪れると、川の上に家を建てて生活している人々や、ゴミが散乱している光景を目の当たりにし、貧困の連鎖がいかに深刻な問題であるかを実感しました。

また、NPO 法人アクションの皆さんや現地のガイドさんのお話から、多くの人々が地方から裕福な生活を求めてマニラに来たものの、仕事や住居を確保できず、こうした地域に住まざるを得なくなってしまうという負のサイクルが生じていることを知り、大きな衝撃を受けました。さらに、マニラを訪問する中で、貧困層と裕福な層の間に大きな格差があることも学びました。

◆ 大学生

現場を実際に見たことが、今回の大きな収穫でした。社会問題については多く語られていますが、それらに対して具体的に何を取り組んでいるのかについては情報が限られており、また、その問題の中で生きる人々の姿を直接見る機会もなかなかありません。しかし今回、状況が確実にポジティブな方向へ変化していることを、目で見て肌で感じることができました。

また、ホストファミリー、大学生、JENESYS 同窓生など、交流の幅が非常に広がったことも大変貴重な経験となりました。さまざまな立場の方々と交流することで、多角的な視点から物事を考えるきっかけを得ることができました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 協力団体

このプログラムは、フィリピンと日本の学生がさまざまな方法で両国の文化を理解するのに役立ちます。

◆ ホストファミリー

日本の学生との交流とお互いの文化理解ができました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

プレプログラム（オンライン事前学習）



2025 年 1 月 21 日（Facebook）

JENESYS 外務省が推進する対日理解促進交流プログラムの一つ。

東南アジアと日本をつなぐ人材になりたい、海を超えてもっと多くの人と出会いたい。そんな思いからプログラムに応募しました。

2 月末からフィリピンに渡航し、日本魅力紹介や現地の人々との交流を通して、お互いの理解促進に励みます。

日本全国から集まる仲間と協力し、より良いプログラムになるように精一杯頑張ります。

派遣プログラム

 Day4終了しました！ 本日まで最初に向かったのは、フィリピン大学。フィリピンを代表する国立大学です。はじめに広大な敷地をもつ大学内のキャンパスツアーを行っていただきました。その後は学生と互いの文化や学校についてのプレゼンテーションと、文化紹介の実演を行いました。どの内容も興味深く、互いの文化を知り尊重し合う貴重な経験となりました。 昼食はフィリピン大学でみなさんと一緒に。続いて訪問したのは、NPO 法人アクションの事務所。活動内容や質疑応答などに対応していただきました。その後、向かったのはナボダス地区における貧困層が居住するエリア。川の上に作られた住居が密集する様子や、多くのゴミが川に浮かぶ様子など、貧困層の人々の生活の現状を肌で感じることができました。夕食はスペイン料理とフィリピン料理を掛け合わせたものをいただきました。 レストラン周辺はヨーロッパのような街並みが広がっていました。 本日も世話になった皆様、本当にありがとうございました。明日はいよいよホームステイが始まります。レポートをお楽しみに。	 フィリピンでの滞在もういよいよ折り返し！ Day4終了しました！ 本日まで最初に向かったのはリセウム大学。私たちが日本人学生からは日本の魅力紹介と文化体験を行いました。リセウム大学の学生からは、竹を使用したフィリピンの伝統的なダンスや目隠しをした棒でお菓子の入った袋を叩く遊びの紹介と体験をしていただきました。 また、お米からできたフィリピンで人気のお菓子などもいただき、フィリピン文化を満喫することができました。そして、リセウム大学との交流後は、近くにある世界遺産の「サン・アグスティン教会」を訪れました。 続いては再び青年組織委員会（NYC）の事務所に向かい、ホームステイ先のご家族との対面式を行いました。みなさん温かく迎えてくださりとても嬉しかったです。 明日は一日ホームステイ先で様々な体験をさせていただく予定です。 それぞれのホームステイ先での体験は後日またご報告させていただきます。
2025 年 2 月 27 日（Instagram） 本日まで最初に向かったのは、フィリピン大学。フィリピンを代表する国立大学です。はじめに広大な敷地をもつ大学内のキャンパスツアーを行っていただきました。その後は学生と互いの文化や学校についてのプレゼンテーションと、文化紹介の実演を行いました。どの内容も興味深く、互いの文化を知り尊重し合う貴重な経験となりました。 昼食はフィリピン大学でみなさんと一緒に。続いて訪問したのは、NPO 法人アクションの事務所。活動内容や質疑応答などに対応していただきました。その後、向かったのはナボダス地区における貧困層が居住するエリア。川の上に作られた住居が密集する様子や、多くのゴミが川に浮かぶ様子など、貧困層の人々の生活の現状を肌で感じることができました。夕食はスペイン料理とフィリピン料理を掛け合わせたものをいただきました。 レストラン周辺はヨーロッパのような街並みが広がっていました。 本日も世話になった皆様、本当にありがとうございました。明日はいよいよホームステイが始まります。レポートをお楽しみに。	2025 年 3 月 1 日（Instagram） フィリピンでの滞在もういよいよ折り返し、四日目終了しました。 まず、最初に向かったのは、リセウム大学（LPU）私たち日本人学生からは日本の魅力紹介と文化体験を行いました。 リセウム大学の学生からは、竹を使用したフィリピンの伝統的なダンスや目隠しをしながら棒でお菓子の入った袋を叩く遊びの紹介と体験をしていただきました。 また、お米からできたフィリピンで人気のお菓子などもいただき、フィリピン文化を満喫することができました。そして、リセウム大学との交流後は、近くにある世界遺産の「サン・アグスティン教会」を訪れました。 続いては再び青年組織委員会（NYC）の事務所に向かい、ホームステイ先のご家族との対面式を行いました。みなさん温かく迎えてくださりとても嬉しかったです。 明日は一日ホームステイ先で様々な体験をさせていただく予定です。 それぞれのホームステイ先での体験は後日またご報告させていただきます。



2025 年 3 月 3 日 (Instagram)

三組に分かれ、それぞれがホームステイ滞在了した五日目が終了しました。

ホームステイ 1 組目は、マニラ市内の富裕層のお宅に滞在。歌とダンスを体験できるレストランにてお食事をし、賑やかな夜を過ごしました。

また、翌日にはショッピングモールも訪れました。美味しいご飯とおもてなしをしてくれたことに感謝しています。

ホームステイ 2 組目は、マニラ市内の高層マンションでホームステイでした。優しいホストファミリーと可愛いワンちゃんとの出会いにほっこり。プールでリフレッシュし、アジア最大級のモールでショッピング&グルメを満喫しました。フィリピンの魅力をたっぷり味わい、忘れられない時間になりました。

ホームステイ 3 組目は、ラグーナにある農家のお宅に滞在しました。

フィリピンの伝統的な食文化や衣装の体験をできたほか、田んぼや農場の見学をさせていただきました。日本では絶対に体験できないような貴重な経験、そして親戚や近所の人々を含め家族の温かさに触れた時間になりました。

ホームステイ終了後は青年組織委員会 (NYC) の事務所に戻り、歓送会を行いました。

滞在中の経験を共有し、感謝の言葉を伝え合いました。たった一晩の滞在でしたが、みんな別れを惜しんでいました。貴重な体験をさせていただき、ホームステイ先の皆様、手配をしてくださった NYC の皆様に感謝いたします。

明日、六日目はマニラ市内の視察を行う予定です。



2025 年 3 月 4 日 (Instagram)

ついに最終日、七日目が終了しました！

この日は報告会に向けた最終準備と報告会でした。今回のプログラムを通して私たちが感じたことをもとに、私たちが問題解決のためにできること「アクション・プラン」を作成しました。

みんなで話し合い、多くの日本やフィリピンの大学生を巻き込んだプランを考案しました！

詳細は後日投稿にて公開します。

お楽しみに。

報告会本番は、在フィリピン日本国大使館や JICA、青年組織委員会 (NYC) や訪問先の大学の学生さんなど多くの方で賑わいました。

大学の学生さんたちが「私たちもアクション・プランに参加したい！」と言ってくださり、本当に嬉しかったです。

私たちはこの一週間で学んだことや体験したことを単なる「経験」に留めず、アクション・プランの実践を通して実りあるものにしていきたいと考えています。

今後もこちらのアカウントでは様々な発信をしていく予定です。ぜひチェックしてください。

今回のプログラムでお世話になった方々に、心より感謝申し上げます。



metaphorical "JENESYS" NYC WELCOME JENESYS THE PHILIPPINE JAPAN CULTURAL EXCHANGE DELEGATES AND

Eight Japanese students from the region of Asaka, Japan, and the National Youth Commission as part of Japan's JENESYS Program. The delegates were warmly welcomed by NYC officials, including Councilman-at-Large Adam L. Gonsales, Vice Governor and Commission Representative for the 1st District, Governor Lito

During her message, Vice Governor Gonsales encouraged the delegates to draw inspiration from the Japanese youth, and as the JENESYS program could find new leaders in their own country, she emphasized the importance of building lasting connections that will endure both now and in the future. She also expressed her gratitude to the JENESYS International Corporation for sponsoring the program and for the delegates.

JENESYS Philippines Area 4 Pacific office members and youth volunteers engaged in interactive sessions with the delegates, sharing their experiences and best practices in youth development across both countries. Additionally, the delegates



metaphorical "JENESYS" NYC WELCOME JENESYS THE PHILIPPINE JAPAN CULTURAL EXCHANGE DELEGATES AND

The JENESYS Program is a joint project of the JENESYS International Corporation and the JENESYS International Corporation. The program is designed to provide Japanese students and youth with a unique opportunity to experience the culture and lifestyle of the Philippines. The program is open to students and youth from Japan, and the JENESYS International Corporation is responsible for the program's implementation and management.

The event, held at the LPU Manila campus, aimed to strengthen the bonds between Filipino and Japanese students and foster deeper understanding between the two nations. The program, conducted with the support of the JENESYS International Corporation, was a success. The delegates, who were accompanied by JENESYS International Corporation staff, were warmly welcomed by the LPU Manila campus. The delegates, who were accompanied by JENESYS International Corporation staff, were warmly welcomed by the LPU Manila campus. The delegates, who were accompanied by JENESYS International Corporation staff, were warmly welcomed by the LPU Manila campus.

2025 年 2 月 27 日（青年組織委員会（NYC）の Instagram）

「NYC が JENESYS を歓迎: フィリピン・日本文化交流代表团」

JENESYS プログラムに参加した 8 名の日本人学生が、日本の友好親善プログラムの一環として、国家青年委員会を訪問しました。代表团は、ミシェル・メイ・ゴンザレス特命委員や、ルソン島代表のリーナ・ヴィヴィアン・ピネダ代表委員を含む NYC 職員から温かく迎えられました。ゴンザレス特命委員はメッセージの中で代表团に対し、フィリピンの若者が彼らからインスピレーションを得ると同じように、フィリピンの若者からインスピレーションを得るよう奨励しました。彼女は、両国の若者に力を与える永続的なつながりを築くことの重要性を強調しました。彼女はまた、文化交流の先頭に立った日本国際協力センターに感謝の意を表しました。

JENESYS フィリピン同窓生と青年ボランティアは、代表团との対話セッションに参加し、両国の青少年育成における経験とベストプラクティスを共有しました。さらに代表团は、NYC の主要なプログラム・プロジェクト・活動について理解を深めました。ピネダ特命委員は応援メッセージの中で、代表团がフィリピン滞在中に素晴らしい時間を過ごし、プログラムから貴重な知識と見識を得ることを期待していると述べました。代表团は滞在中、学校交流とホームステイのマッチングのためにマニラの大学を訪問する予定です。

2025 年 3 月 1 日（青年組織委員会（NYC）の Instagram）

「JENESYS 代表团、フィリピン リセウム大学を訪問 ホームステイマッチングためホストファミリーと対面」

フィリピン リセウム大学 (LPU) 国際関係学部は、JENESYS の大学訪問を受け入れ、日本からの訪問団を迎えて文化に浸る一日を過ごしました。LPU マニラキャンパスで開催されたこのイベントは、フィリピンと日本の学生の絆を深め、両国間の理解を深めることを目的としています。プログラムは、マリア・アニセタ・H・ブガリン学部長兼元大使の温かい開会挨拶で始まり、永続的な友好関係を築く上での文化交流の重要性を強調しました。

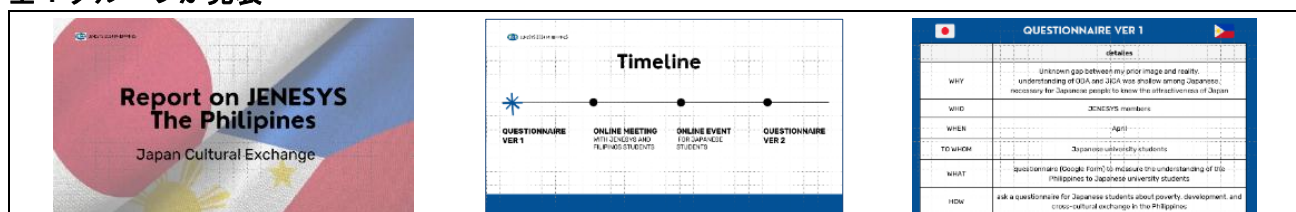
日本の学生が魅力的なプレゼンテーションを行い、日本の文化や考え方について理解を深めました。LPU 舞踊団は、フィリピンの豊かな伝統を紹介する伝統舞踊「ティニクリン」を披露し、参加者達を魅了しました。にぎやかな「ブクポック・パラヨック」ゲームは、参加者をさらに惹きつけ、楽しさと友情が深まる雰囲気を作り出しました。

ホームステイマッチングでは、ソーシャル マーケティング部門のチーフであるクリスタベス マドリガル氏が参加者とホストファミリーに挨拶し、感謝の意を表しました。

この日の重要なポイントは、参加者がフィリピンのホストファミリーとペアになるホームステイマッチングでした。日本の学生はフィリピンの日常生活を体験し、フィリピン人の温かさと寛大さに触れる経験をします。

6. 報告会での渡航成果とアクション・プラン発表（抜粋）

全1グループが発表



【成果の発表】

◆ 貧困についての気づき：

フィリピン各地で貧困の現実を目の当たりにしました。特に、NPO 法人アクションの案内で訪れたナボダス市の川沿いの住宅密集地は、私たちの育った環境とは大きく異なり、衝撃を受けました。この地域の形成には、地方から都市へ移住した人々が安定した生活を築けずにいるという複合的な問題が関係しています。貧困解決には、経済支援だけでなく、雇用創出や地域発展など包括的な取り組みが必要であると実感しました。

◆ 開発交流についての気づき：

マニラ首都圏の交通渋滞による社会的損失は1日約35億ペソ（約80億円）と推定されています。JICAは現地の声を尊重し、MRTの改修や道路整備を通じて持続可能な開発を支援しています。ICAが建設に携わった立体交差を通る機会も多くありましたが、意識しなければその貢献に気づきにくいことを実感しました。こうした開発の重要性をより多くの人に伝える工夫が必要だと感じました。

◆ 文化交流についての気づき：

フィリピンでの文化交流を通じて、異文化理解の重要性を学び、伝統舞踊ティニクリンの体験や、ホストファミリーとの生活から多様な文化の共存を実感しました。また、民族音楽の指揮者であるホストファミリーとの対話の中で、音楽が歴史やアイデンティティを伝える手段であることを学びました。ホストファミリーとの出会いは、他者理解だけでなく、自文化を見つめ直す機会にもなりました。

【アクション・プラン】

- ① 4月、日本の大学生を対象としたアンケートを実施します。本プログラム参加メンバーがオンラインフォームを用いて、日本の大学生のフィリピンに関する理解度を測る調査を行います。テーマは貧困、開発、異文化交流です。この調査を通じて、日本人のフィリピンに対する認識と実際の状況とのギャップを明らかにし、日本のODAやJICAの役割について理解を深めることを目指します。
- ② 5月、本プログラム参加メンバーと本プログラムで交流したフィリピンの学生が、4月に実施したアンケート結果をオンライン会議で分析します。その後、協力してフィリピンの現状を紹介するプレゼンテーションを作成し、日本の大学生向けに発表します。この過程で、フィリピンの学生も日本のODA（政府開発援助）について理解を深めることを目的としています。特に、貧困や開発をテーマに現地学生の視点を取り入れることで、より充実した内容にすることを目指します。
- ③ 6月、日本の大学生を対象としたオンラインイベントを開催し、フィリピンの学生が自国の現状や調査結果について発表します。その後、質疑応答を行い、双方向の学びを促進します。
このイベントの目的は二つあります。一つ目は、日本の学生がフィリピンの現状を現地の声から直接学び、日本の認識と実態のギャップを埋めることです。これにより、将来的な日比間のビジネスや関係強化につながることを期待しています。二つ目は、日本の学生に、ODAやJICAがどのようにフィリピンの発展に貢献しているのかを伝えることです。国際協力における日本の役割を理解することで、日本の文化やアイデンティティの重要性にも気づく機会になることを目指しています。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）